

白虎隊の「義」伝えたい

白虎隊の会

b y a k k o t a i n o k a i

会誌 4 号

Vol.4 2014年4月

白虎隊の「義」後世に



目次

巻頭言 副会長 木下 健 東京大学名誉教授 …	2
本年度の事業をふり返って……………	3
大窪山墓地案内図の設置企画……………	4
大窪山墓地について……………	5
大窪山墓地案内図除幕式……………	6
会津秋祭りに参加して……………	7
仙台市北山輪王寺 飯沼貞雄の記念碑企画・推進 ……	8
飯沼貞雄終焉の地説明板の設置……………	9

縁もゆかりも 輪もあった……………	10-11
漫画『あずさ弓の如く』の出版……………	12
「長州と会津」の放映について……………	13
「八重の桜」と白河と私……………	14
支部だより(会津、京都、下関)……………	15-17
貞吉本出版記念下関講演会並びに祝賀会……………	18
支部だより(長崎、東京)……………	19-20
本部だより、会員名簿……………	21-23

會

発行者 白虎隊の会

巻頭言

副会長 木下 健 東京大学名誉教授



白虎隊の会も多少は知られるようになってきた。かも知れない。平成25年度には大窪山

墓地案内図の設置も行うことが出来た。私個人としても、京都の同志社大学での講演を飯沼一元事務局長、渋谷巧さんと一緒にさせて頂き、実は始めて金戒光明寺の塔頭の西雲院に伺うことができ、会津墓地にお参り出来た。写真は現御住職がたまたま西雲院に残っていたものを見付けられたもので、勢津子姫が秩父宮妃殿下とならせ給うた奉告をかねた幕末藩士の大法会の時、昭和3年10月7日光明寺にて撮られたものである。殿様保男子爵、勢津子姫父君恒雄宮内大臣を囲みそうそうたる顔ぶれが並んでいるのに驚く。山川浩が陸軍少将になったとき山県有朋が会津は將軍にしないと決めていたのに何事かと怒った時から10数年後には、この様に官界、学会、軍首脳に会津出身者が活躍していたことが分かる。

ここに居並ぶ方々の足跡を辿ってみると、勝者が歴史を刻んでいく中にも敗者の気持ちの滲み出る、客観的な共通する生き方を、私に

は感じ取ることが出来る。

同志社での講演会は前日の地方紙での案内の効果のお陰で予想を大きく上回る参加者であった。後日、北九州市での別件の会議の参加者の中に同志社での講演会で私の話を聞いて下さったという方があり嬉しい思いをした。

会津若松には会津祭りの時に加えて1月25、26日にも伺った。その時は作家の笠井尚さんのご案内で会津若松市の小野屋漆器店の小野隆市社長や県議会、市議会でご活躍の方々と楽しく地域振興のお話しをさせて頂いた。夜は柳津町で鄙びた名湯と地元の有志の方々の飲み会を存分に楽しんだ。翌日は浩、健次郎の祖父、山川兵衛重英が戊申の敗戦後暮らし、亡くなった湯川集落を訪れた。ここは健次郎が奥平謙輔を頼って新潟に脱走する途中に兵衛に挨拶に立ち寄り、山川家伝来の名刀を兵衛から受け取った地である。世話になっていた赤木家の辺りには新しい家が建っていて別人の表札が掛かっていた。西雲院の写真にもある飯盛山弁天洞をほりぬいて猪苗代湖

の水を会津盆地にとおした八田宗吉の八田集落にも小野社長、笠井さんと訪れた。宗吉の子息貞義元衆議院議員の使っていた大きな会館を何とか青少年のために有効に利用する方法はないか話合った。今年も皆様のお陰で、充実した会津づくしの一年を過ごすことが出来た。



本年度の事業をふり返って

事務局長 飯沼 一元

本会の目的は「白虎隊の『義』」を後世に伝えることである。そのためには活動が外に見える形にして後世に残す必要がある。

昨年度は、

一・「白虎隊が辿った道」彫刻石および戸の口洞門説明版設置（会津飯盛山）

二・日下義雄顕彰説明版の設置（長崎市しとき川）

三・『白虎隊士飯沼貞吉の回生』の出版を実施した。

本年度の事業としては、

①会津大窪山墓地案内図の設置

②仙台市北山輪王寺飯沼貞雄の墓に説明板と梓弓の歌碑を設置を実施した。

これらに加えて、イベントとして、

●会津藩公行列への子孫隊参加（会津）

●京都支部講演会（同志社大学）

●下関支部出版記念講演会（下関市）
などが企画され実施された。これらの詳細は以降に紹介される。

また、本年は大河ドラマ「八重の桜」で幕末・会津が話題になった。貞吉本を出版した

タイミングがこれとマッチしたお陰で、筆者に講演依頼が舞い込んだ。

幕末史研究会（3月・東京吉祥寺）、自立人間を目指す会（4月・大阪）、MM会（5月・東京丸の内）、世田谷講演（6月・東京世田谷）、白河講演（9月・白河市民会館）、京都講演（10月・京都同志社）、下関講演会（10月・下関市）、山口七夕会（11月・東京霞が関）、ダイヤ神奈川（12月・横浜）、山形大医学部（1月・山形県上山市）などである。

このようなイベントや講演会を通して、新しい出会いや交流が生まれ、貴重な情報に接することが多々ある。

明石市にお住まいの大山ヤス様から、貞雄が描かせた「白虎隊自刃の図」が自宅にあると連絡を受けた時は、本当にびっくりした。この図は、飯沼家に保管されており、貞吉本の表紙に使ったものだが、貞雄は2幅描かせ、そのひとつを大山登氏に手紙を付けて贈ったのである。大山家では、これを家宝として、大切に保管していたが、ご子孫で一人娘のヤス様も高齢になられ、先々伝承していくのも難しいと判断された結果、筆者の手元に戻し

ていただいた。

また、白虎隊で隊長を代行して指揮を執った篠田儀三郎のご子孫が、青森県の十和田市で十和田会津会の代表を務めておられることが分かり、当会に入会していただいた。



飯沼貞雄が大山登氏（元明石藩士）に贈った白虎隊自刃の図。

大窪山墓地案内図の設置企画

飯沼 一元

会津大窪山には約4千の会津藩士の墓があるという。田中、西郷、横山、井深、などは勿論のこと、相沢家、飯沼家の墓もここにある。会津ゆかりの人がご先祖を訪ねるとしたら、大窪山は欠かせない。

私は4年前に佐藤一男さんの案内で飯沼家と西郷家の墓を訪ねた(写真)。飯沼家子孫としてはこれが初めてのことだった。よく見ると何と13基もの墓があるではないか……知らずにいたことにご先祖に申し訳ない思いで一杯だった。

これが兄に伝わり、次々に大窪山参りが始まった。だが、そのたびに佐藤さんに案内をお願いする羽目になった。一人では到底辿り着くことはできない。会津の人でもこの地を案内できるのは数人しかいないのではないかと。息子や孫が現地の人の手を煩わせないで訪問できるようにしたい。会津通の観光客にとっても同じ思いだろう。そのためには墓地案内図を造るのが良い。

ところが、大窪山は国有地の為、案内板等の設置はおろか墓地工事等が厳禁されていることが問題だった。何度か現地を訪問するう

ちに、大窪山麓に位置する善龍寺境内に案内図を設置することを思い付いた。善龍寺はなやたけの碑で有名だから、訪問客はタクシーで善龍寺に行き、案内図を見て大窪山墓地に行くことができる。

佐藤一男さんに相談すると、「善龍寺の住職はよく知っているので頼んでみよう」と。

その後、平成24年秋に研究担当の石田明夫氏に、25年秋を目標に具体化を依頼した。

平成25年7月26日 石田氏が住職から以下の条件で快諾を得る。



大窪山の飯沼家墓地を訪ねて。中央は筆者。右端が佐藤一男さん。



大窪山にある西郷近登之夫妻(貞吉の母方の祖母)の墓。祖母なほ子は貞吉出陣に際して「君がため…」の歌を贈ったが、その日に一家自刃した。

- 場所は本堂前の左側、最も目立つ場所とし、早期に設置すること。
- なやたけの会と護学会の同意取り付け。

早速、案内図の設計を石田氏に依頼し、制作・施工は会津の天狗堂に依頼した。

除幕式は9月22日午後2時、招待客等の段取りは会津支部井関氏担当となった。

式当日は、快晴に恵まれ、旅行客で溢れました。このため、高速道路で渋滞に巻き込まれ、白河で安司さんに SOS。現地到着は10分前というきわどさでした。安司さん、本当に有難うございました

大窪山墓地について

研究担当役員 石田 明夫

会津藩士の墓地は、藩祖保科正之公が寛文4年（1664）、儒教の教えに基づき火葬を禁じ土葬にしたことから、小田山南側の大窪山、一箕町滝沢の小山と坊主山の三ヶ所を集団墓地として定めたのが始まりです。なかでも大窪山は、西に隣接する善龍寺墓地と合わせると、約三千から四千の墓地があります。全国でも、これだけまとまった集団墓地は京都以外では珍しく、史跡として会津若松市指定文化財に指定されています。

ここには、西郷頼母邸で自刃した婦女子二十一人の墓、藩士の遺体埋葬に尽力した伴百悦、白河で戦死した横山主悦や西郷家、飯

沼家などの墓地があります。

若松城下にある神道の墓地を中心に、会津藩士の多くがこの大窪山と善龍寺の墓地に埋葬されています。しかし、戊辰戦争で西軍に大敗した会津藩は、斗南藩へ行くこととなり、会津を去ったのですが、墓地は移転することは無く、多くが会津に残されました。そのため、墓地を訪ねる子孫の方が今でも多くいます。

ただし、小田山の尾根に囲まれ、墓地を管理する人もいなかったことから荒れ放題となり、市では、史跡指定を機会に山道整備と樹木伐採を進めました。それでも、墓地の表示は一部にとどまっていたのが現状で、全体図の看板は、徒歩で行かなければならない大窪山内に設置されました。

なよたけの碑

そこで、墓参に多く訪れる善龍時境内にある会津藩の婦女子233名が刻まれた「奈与竹の碑」や家老の「西郷頼母・千重子墓」がある善龍寺本堂前に大窪山墓地の案内板を設置することにしたわけです。

祥雲山善龍寺は、寛永20年（1643）8月13日、保科家元祖の正則公を祀る菩提寺として、長野県高遠に建てられ、正之公の山形移封に伴い移転し、そして会津に移りました。戊辰戦争では、寛政9年（1797）に建てられた竜宮造りの山門（市指定）が、内部に西国三十三観音を祀っていたため焼かれませんでした。したが、本堂をはじめすべて灰燼となりました。



善龍寺山門

大窪山墓地案内図除幕式

会津支部長 眞部 正美

会津藩士が多く眠る大窪山墓地の案内説明板が、会津若松市北青木の善龍寺本堂前に平成25年9月22日、白虎隊の会によって建てられました。ステンレス製で、高さ2・2メートル、幅1・15メートルの縦型看板です。

看板の除幕式は、午後2時から、本堂前の看板前で行われ、会津若松市長室井照平さんをはじめ、善龍寺住職の寿上祐光（としがみゆうこう）さん、善龍寺護持会会長の田代詔則（つぐのり）さん、なよたけの会会長の吉田幸代（さちよ）さん、白虎隊の会会長の山本英市さんなど約五十名が参列しました。白虎隊の会からは、副会長の木下健さん、石田明夫さん、顧問の佐藤一男さん、など全国からの参列がありました。

式では、飯沼一元事務局長より設置に至った経緯も含めてのごあいさつを頂戴し、続いて看板設計担当の石田明夫さんから大窪山墓地についての説明を頂きました。

来賓あいさつとして、菅家一郎衆議院議員、小熊慎司衆議院議員、寿上佑光善龍寺住職、吉田幸代なよ竹の会会長、田代詔則善龍寺護寺会会長より頂戴いたしました。

その後、飯沼一元・石田明夫・佐藤一男・菅家一郎衆議院議員・小熊慎司衆議院議員・渡部優生会津若松市議会副議長・渡部慶二観光商工部企画副参事・寿上佑光・田代詔則・吉田幸代の各氏と私とで、除幕を行いました。除幕後、会津藩士の子孫でサクソホン奏者の木村義満さんが「荒城の月」を演奏し奉納頂きました。

案内板は、畳一畳分の大きさで、だれが見ても分かり易い大きさであり、会津へ訪れる観光客の方や地元会津の人達にも今後、案内図を参考に会津藩士の御霊に手を合わせて頂くことが出来ることは大変素晴らしい事です。



会津秋祭りに参加して

特別会員 小日向 輝夫（福島市）



私は会津藩士相沢平右衛門重詮のひ孫・相沢家第13代を継ぐ会津っぼです。

平成25年1月に会津藩子孫会から会津秋祭り「藩公行列」参加決定の知らせが入りました。子孫会は代表が小池純一氏（戸の口原で戦死した遊軍寄合組隊長小池繁次郎子孫）、副会長は河原田久雄氏（河原田治部子孫）、世話人は井上昌威氏（会津歴史研究会会長・鈴木又四郎子孫）が務め、5年前に結成され藩公行列に参加しました。相沢家と小池家は姻戚関係にあることから、以前から親しくさせていただいています。

参加者が不足気味とのことで、白虎隊の会にも声がかかりました。当初から参加しておられた山本英市会長（西郷頼母子孫）に加えて、木下洋氏（山川健次郎子孫）、飯沼一浩

氏（飯沼時衛子孫）、飯沼一元氏（飯沼貞吉子孫、鳥羽孝利氏（江川次郎八子孫）らが参加することになりました。

9月22日午後5時、ホテルニューパレスで、結団式兼懇親会が開催されました。

丸テーブルが10個、約80名の参加者で賑わいました。事務局からの一通りの説明の後、名刺交換・資料紹介・写真撮影とともに、自己紹介が始まりました。私にもマイクが回ってきたので、「ふぐ鍋隊」の紹介をしました。これは、震災2カ月後の5月に、下関から派遣された一行が、当時原発避難者を収容していた福島市にある「あづま総合体育館」にふぐ鍋の炊き出しに来てくださったこと、そこで本会下関支部の香井勇二氏にお会いしたことの紹介です。

翌23日朝7時鶴ヶ城体育館に集合。甲冑を装着し、鶴ヶ城広場で開催された出陣式に参加。その後は、往復6キロの行程を6時間かけてパレードしました。好天に恵まれ沿道には大勢の観客が集まりました。私は、「貞吉の孫がいまゝす」、「握手したい人、写真を撮りたい人はどうぞ」と声掛けし、隊長から

「列を乱さないように!」とお叱りを受ける始末。兎に角、素晴らしい一日でした。

なお、前日には「大窪山墓地案内図序幕式」に参加し、23日夜は「寝ぼけ茶屋」（旧飯沼邸）にて、白虎隊の会の懇親会に参加、翌日は「飯盛山白虎隊墓前祭」に参拝と充実した3日間でした。



会津藩公行列出陣式に臨む会津子孫隊

仙台市北山輪王寺 飯沼貞雄の記念碑企画・推進

飯沼 一元

飯沼貞吉（後貞雄）は、慶応4年戊辰戦争の際、白虎隊士として出陣するも飯盛山で同志と共に自刃した。偶然救助され唯一人蘇生した。後、白虎隊自刃の顛末を手記に残し、歴史の貴重な証言者となった。

明治5年通信界に入り、電信技術者として全国の電信・電話網の架設に尽力した。明治30～37年に仙台郵便局勤務、後、札幌郵便局を経て、明治43年に仙台通信管理局工務部長となり、以降仙台に住み、昭和6年享年78歳で没した。

墓地は仙台市の北山にある輪王寺の奥の一番高いところにある。輪王寺は曹洞宗で、伊達家の庇護の下に栄えたが、明治9年野火に類焼し、仁王門のみを残して灰塵に帰し、山内は荒廃した。明治36年に本山から派遣された第41世福定無外和尚が辛苦十余年、寝食を忘れて再建に努力し、大正4年、本堂と庫裡を完成させ、その後見事なまでに美しい庭園を建設した。

貞雄の墓は没後1周忌に無外和尚が建立した。戒名は「白巖院殿孤虎貞雄居士」とされ、『白虎』と貞雄の雅号『孤虎』が織り込まれ

ている。

この地は当時日向君招魂碑（白虎隊長日向内記の長男真寿見の碑）があつた青葉神社に隣接し、高台から遠く会津を望むことができる。日向君招魂碑は貞雄ほか通信省有志が明治39年に建てた。貞雄と無外和尚が仙台に着任したのは同年である。貞雄は和尚と親交を深め、墓の一切を託していたのだろう。無外和尚は墓誌に白虎隊を称える漢詩を添えた。

このような経緯を考えると、貞雄の墓は史跡としても重要と思われるが、案内なしで辿り着くのは困難であった。

輪王寺の日置道隆住職に記念碑と案内板の設置を打診したところ、快諾を得、矢印案内



白虎隊・飯沼貞雄ゆかりの歌碑 仙台で除幕式

子孫「人の生き方に通じる歌」

戊辰戦争で新政府軍と戦い、会津若松市の飯盛山で集団自刃した会津藩の白虎隊のひとり、ただ一人生き残り、幼少で飯沼貞雄（1854～1931年）の歌は『度志を抱いたら西陣に遭う』と、ゆかりの歌碑の除幕式が16日、貞雄の墓がある仙台市青葉区北山の輪王寺であった。

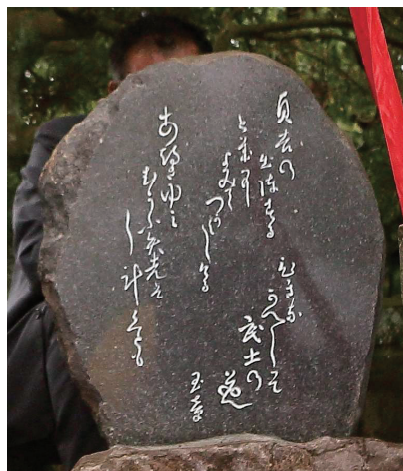
貞雄の次男「禮三」（故人）の息子3人が建立した。歌は、貞雄の母で歌人であったふたみが出陣に際して贈った「あずさゆみ、わかふ矢先はしづき、備に尽きた足跡を記した説明板も設けらる。ひきなかへしそ、武士（も）置した。」

河北新報 2013年9月18日

あずさゆみ
むかふ矢先はしづきとも
ひきなかへしそ
武士の道

貞吉の出陣するときによみてつかはしける

玉章



あずさ弓の歌碑

板3か所とあずさ弓の歌碑および説明板を設置することにした。

歌碑は佐藤一男さんの紹介で会津の古川石材店に磐梯山石2基を使うようお願いした。序幕は9月16日、台風のなか無事に執り行われた。

飯沼貞雄終焉の地説明板の設置

飯沼 一元

飯沼貞雄の訃報は、昭和6年2月14日付の『河北新報』朝刊一面に、「白虎隊唯一の残存者飯沼貞雄氏、宿病と感冒で遂に逝く〜三時代に更生した国宝的存在〜」と題して、貞雄の数奇な運命と後の功績を紹介する記事として写真付きで大きく取り上げられた。

……飯沼貞吉少年も遅れてはならぬと脇差の鞘を払って咽喉深く突きさして悲愴な最期を遂げたにも拘らず、程なく蘇生して明治大正昭和の三時代に更生の道を拓し、通信省に入って技師となり、精勤数十年の勤務正五位勲四等に叙せられて、大正六年功成り勇退して以来光禅寺通りの自宅に悠悠自適の生涯を送っていた翁の長逝は恰も国宝を失った感がある。

私は、この地で生まれ育った。部屋は10畳間が6室ほどあり、一部は2階建てで広がった。戦後、父が長期入院生活を余儀なくされたので、母は建屋を改造し、幼稚園を経営し、一家を支えた。幼稚園は40年続けたが、後継者がなく平成3年に閉園し、アパートに衣替えした。その時、飯沼貞吉終焉の地碑を建てたが、奥庭に置いたため、余程の歴史通

以外はアクセスできなかった。宅地に侵入しなければ見学できないのは不親切とか、会津史談会からこの地を訪問したいとの申し出があるなど、案内板の設置が望まれていた。そこで、平成25年8月23日、下記のような案内板と説明板を設置した。



仙台市の飯沼貞雄の家(2階建のところ)。写真撮影時(昭和40年頃)はこの地を幼稚園に改造して使用していた。右端は貞雄が植えた会津身知らず柿の木。



光禅寺通り側に設置した案内板



仙台市錦町1-1-34番地に設置した終焉の地碑説明板。脇に聳え立つのは貞雄が苗木を札幌から持ち帰って植えた柏の木。

縁もゆかりも 輪^わもあつた

会員 一瀬睦子 仙台市

はじめまして私、一瀬睦子と申します。生まれは北海道は網走で、残念なことに会津とは縁もゆかりもない



のです。しかし、旧姓を蒲生といったので蒲生氏郷の会津若松城は小さい頃から知っていました。

昭和40年にお城が再建された時、私は北見から見学に行き、「いやいや立派なお城だ。石垣も見事。大好きだ」と喜んで帰ってきたのを憶えています。

家には木でできた百人一首がありよく遊んでいました。会津は桐ですが、北海道は朴の木です。大河ドラマでも八重さんが得意になってやっていたあのカルタです。母も飯盛山の話をしていたので、ご飯を盛ってもらったび山を想像して、生き残った人はどうなったのかなあと気にしていました。あの頃、大河ドラマで「三姉妹」をやっていたのでなおのこと北国の幼な娘は戊辰戦争に興味をもったのです。

そんな私は大きくなり札幌で結婚します。苗字が蒲生より良い人と思っていたので一瀬さんという人と結婚しました。式場は札幌の南7東1のロイヤルホテルですが、蒲生睦子最後の日は、以前より憧れていた南7西1にある電電会館に北見から来ていただいた美容師さんと2人で泊まりました。私はソフトボールをしていて、自慢ですが国体に7回も行きました。そのころ一番強い実業団は川崎の日本通信工業でしたが、そのチームが札幌に来た時の宿泊先が電電会館でした。

当時は、鴨々川沿いに柳の木が何本もあって閑静ないいところでした。その地がなんと飯沼貞雄さんが明治37年から43年まで住んでいたとは、ずっと後になって知るのでした。

私たちはその後、転勤で埼玉県の行田市に移ることになりました。ずっと、どさん子でいたかったので本州人になるのはイヤでしたがお城が見れると思ひ直し、さっそく主人と2歳と3

歳の息子と4人で秋の会津に行きました。山も湖も柿の木もすすきも絵に描いたようで、福島は美しいと感動しました。

泊まった処は十六橋近くの翁島荘です。そして、初めて飯盛山に登り、白虎隊士の名前と人生をしつかり知ることができました。

それから2年後に仙台に移りました。私は大きなお腹をしていました。近くに森を抱いた古い山門の素敵な輪王寺がありました。桜の季節には家族で散歩に出かけました。飯沼貞雄さんの墓があると知って、4人で歩きま



札幌にある飯沼貞吉ゆかりの地記念碑



輪王寺 飯沼貞雄墓にて 2014.9.16 梓弓歌碑除幕後撮影

わり探しましたが見つからずに帰宅しました。そしたら次の日に女の子が生まれました。輪王寺参りにあやかって、輪子と名付けました。

貞吉さんのお墓があると知った私は季節の折々、子供を連れて散歩に出かけては墓参りしました。資料を読んでいると、飯沼貞雄さんの札幌居住地が南7西1となっていたことにピンと来ました。早速、電電会館に電話すると、支配人の竹村修さんが、「そうなんです。札幌の会津会の皆さんが記念碑前に集まり白虎隊剣舞を奉納していますよ」と教えて下さいました。点と線が繋がり、大げさかもしれませんが私は身震いしました。なんという縁なのでしょう。

時は経ち、娘輪子が18になり、大学受験となりました。前期は東北大を受けましたがダメでした。後期を北大にしていたので、「敗者復活戦だ。目指すは白虎隊士ゆかりの地、札幌第一ホテル（旧電電会館）へ、いざ出陣」と親子して気を取り直し、仙台港から太平洋フェリー「きたかみ」で北上しました。

札幌では貞吉ゆかりの地碑にお参りして、ホテルに入ると、「飯沼館」という素敵な和室が用意されていました。その日、私は明治の札幌の面影を探して、廃校になった豊水小

学校の資料室から、仙台の光禅寺通幼稚園に立つ柏の木の写真を見つけました。翌日、3・11大震災が東北地方を襲いました。翌12日輪子は受験し、北大に合格しました。

ということ、私たちにとっては貞吉さんは学問の神様なのです。

今年の9月16日、私も輪王寺での梓弓歌碑の除幕式に招待され、参加いたしました。その日は仙台は台風で豪雨でしたが、「ひきなかえしそ」の気分の家を出ました。輪王寺の本堂は、大雨にもかかわらず静かで、凛としていました。法要のあと、雨が止み、初めてお会いした皆さまと語りながら、坂道を登って墓に向かいました。それから、タクシーを相乗りして飯沼貞雄終焉の地（光禅寺通幼稚園跡）を訪ね、聳え立つ柏の木を見て感無量でした。そのあとは、ホテルKKRでの懇親会です。会に参加された皆さんは素晴らしい方ばかりで、楽しく夢のようなひと時でした。白虎隊の会は歴史を学び、先人達を知り、義をもって縁を楽しむのにとても良い会です。会報の京都支部だよりを拝見し、4月には京都に行ってみようかと思っています。まずは、金戒光明寺を中心に修行を開始し、地味に地道に明るく生きていこうと思っています。

漫画『あずさ弓の如く』の出版 — 会員 苑場 凌（渋谷 巧）

私が地元（山口県美祢市）で「白虎隊の少年が美祢で育てられた」という一文を目にしてから十数



年が経った2012年の6月、京都山口県人会会長の中村正氏から突然「白虎隊の少年が長州で養育された話しを描かないか？ その少年の子孫の方を知っているので紹介するよ」というメッセージを頂きました。

私は即答し飯沼一元氏に会いに出かけ、氏は漫画化することの快諾と長年集めた大切な資料を渡してくださりました。その資料と、高見フサ子孫の吉井克也氏の取材協力によって、一年で上巻会津編、下巻長州編を出版する事が出来ました。

その二ヵ月後、故郷に帰省した時の事です。我が家を訪れて来られた住職さんが「あなたはいい本を出されましたな、長州と会津の絆を子供にも分かりやすく漫画で描いたことは、まことに素晴らしい」と恐縮するほどのお褒めの言葉をいただきました。

そして帰られる時にその方が「あなたに、

いずれ大事なお願いしようと思っています。その時はよろしくお願いします」仰いました。私はその時は何の事か分からなかったのですが、後でその方は長州と会津の関係修復に何十年も活動されていると知りました。

そして高齢と大病を患ったことで、一線を退き、次の世代に後を引き継いで欲しいと考えておられる事も……

私はいま「あずさ弓の如く」の本を前に改めて出版の意味を考えています。「この本は今まで出版した漫画本とは違う。今までの本は描き上がったら終わりだが、この本は描き上がり出版した所がスタート。登山に例えるなら山登りの準備がやっと出来たということなんだ。その山がどのような山かは分からないが、決して登りやすい山でない事は確かだ。私の様な者が、ご住職と同じような活動が出来るとは思わないけど、きつと漫画家ならではのやり方があるはずだ」と……

この本は自費出版ですので、大掛かりには販売できませんが、それでも協

力して下さる人々の手を借りながら山口（私の感触では山口県西部方面）では徐々に広まっていると思います。でもまだまだです。いま、やっと一合目に登った程度です。山頂は遥か遠く見えませんが、いつかは会津と長州の雪解けが見られる山頂を目指して、私なりの登山道を探して登って行きたいと思っています。



あずさ弓の如く（上巻）（下巻：長州編）
定価各 1,000 円 取扱店一覧は下記 HP まで
<http://bakumatsuyouzenjyuku.web.fc2.com/>

KRY(山口放送)熱血テレビ特集

「長州と会津」の放映について

下関支部長 吉井 克也

一 はじめに

「山口放送テレビの制作課長佐々木聰氏から「あずさ弓の如く」の作者、渋谷 巧（ペンネーム苑場 凌）氏を中心に「会津・長州」の特集を組むので協力して欲しいとの依頼があったのは7月末頃だったと思います。

「長州の中の会津」を今のうちに「きちんと映像に残したい」と、当初は1、2の特集を考えておられたようですが、美祢市小杉で、初回の取材を終えた時点で『高見フサ口伝』の伝える「長州藩士榑崎頼三と白虎隊士飯沼貞吉の怨讐を越えた人間愛の物語」に衝撃を受けておられました。

そして、企画は膨らみ・ついに第4弾まで制作、放映されることになったのです。

佐々木課長はこれらを1時間のドキュメント番組に編集して全国に放映したいと語っておられます。

美祢市出身の渋谷 巧氏の漫画「あずさ弓の如く 上下」とその原作となった飯沼一元氏の「白虎隊士飯沼貞吉の回生」がこの特集を生み出したのです。

二 内容（構成）

① 8月30日 放映

長州と会津 第1弾

（長州に刻まれた白虎隊の残影）

（渋谷 巧氏ナビゲーター）

●「あずさ弓の如く」の制作動機

● 高見家でのフサ口伝の様子

● 榑崎頼三と飯沼貞吉の出会い

● 白河踊りの紹介

② 9月12日 放映

長州と会津 第2弾

（白河踊りの謎にせまる）

（萩市の中原正男氏の調査による）

● 県内58地域で踊られており、地区毎に、歌詞もメロディーも微妙に異なる。

● 白河踊りの紹介

● 福島県の白河からどうして山口県に伝わったか。

③ 10月11日 放映

長州と会津 第3弾

（白虎隊の子孫が語る）

● 京都山口県人会主催「飯沼一元氏出版記念講演会」（同志社大学良心館）

● 白虎隊自刃の真相

● 貞吉の長州での養育（フサ口伝）

● その後の貞吉の人生

● 三家対面（飯沼・榑崎・高見）

● 飯沼一元氏インタビュー

● 「貞吉本」を書く動機

● 会津攻撃の理不尽さ、白虎隊が皇国の鑑とされたこと、貞吉の名誉回復

④ 10月30日 放映

長州と会津 第4弾

（長州に刻まれたある会津藩士の秘話）

（渋谷 巧氏ナビゲーター）

● 渋谷氏による母校伊佐小での講話風景

● 会津の間諜神戸岩蔵の紙芝居

● 神戸岩蔵の処刑地・墓地の案内

● 神戸岩蔵の話が伝えられた長府集童場

三 おわりに

「会津・長州」をテーマに第4弾まで制作をされたKRYの佐々木制作課長さんとスタッフの皆様方に、まずはお礼申し上げます。

この放送は、「戊辰の恨み未だ冷めやらぬ」と言われている会津の人々にも、「すっかり忘れたかのように見える長州の人々」にも、「今一度幕末・明治の歴史を見つめ直そうよ」そして、今こそ「怨讐を乗り越えていく努力をしようよ」と訴えているのです。

怨讐は人を不幸にしますが、幸福をもたらすことは決してありません。この連鎖を断ち切るために私達に何ができるか。下関支部は、そのことを求め続けてまいります。



榑崎屋敷跡(現高見家墓所)

「八重の桜」と白河と私

安司 弘子

東日本大震災等の発生を受けて、NHKが福島県を舞台にした大河ドラマ「八重の桜」の企画を発表してすぐ、私は「白虎隊の会」の役員の皆様にメールをしました。

白河の被災状況を知っていただき、戊辰戦争がテーマともいえるドラマに、何とか白河を登場させられないかとの相談でした。

山川健次郎のご子孫で副会長の木下健さんが、これに応じて下さいました。

まだリサーチも始まりず、文献などを集め始めた状況の時だったようですが、「白河口の戦い」ということばを、ドラマ制作者の脳裏にご記憶いただいたその端緒は、あときご尽力くださった木下さんにあると感謝しています。その後、市が精力的に行動し念願が叶ったのですが、当初の事を思うと夢のようです。

福島県が、ダメージを受けた観光事業の振興を、大河ドラマを核に舵取りをしたことが、私の生活にも大きく変化を及ぼすことになりました。ドラマに連動させた福島県南地方の観光推進事業「桜プロジェクト」のスタッフとなったのです。

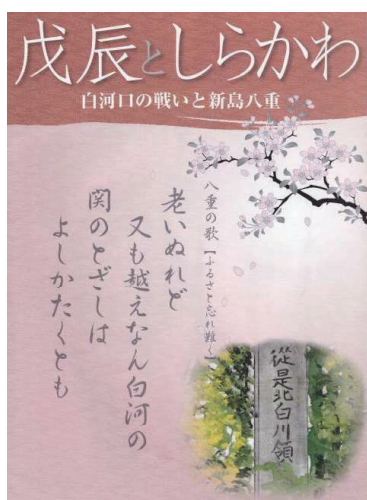
「戊辰戦争白河口の戦い」を主題にしたこれまでの取り組みは、看板設置、モニターツアー・宿坊ツアー・講演会の実施、パンフレット・冊子・ボランティアガイドのユニホーム・ガイド募集のチラシ等の作成、各種イベントへの参加など盛り沢山。

どれもこれも初めての体験で四苦八苦でしたが、とりわけ、パンフレット『戊辰としらかわ』と、冊子『「戊辰としらかわ」を巡る二十の物語』の取り組みは、私の器量ではとても及ばない作業であり、親身に助けて下さる方のお蔭で完成できた、感慨深いものでした。

公的機関による特別企画展や展示、植樹祭なども行われましたが、私が所属する「NPO法人しらかわ歴史のまちづくりフォーラム」では、「八重の時代と新選組・白虎隊」というイベントを企画し、事務局長の飯沼一元さんにも講演をお願いしました。また、『週刊朝日』が「司馬遼太郎の街道」のコーナーに、白河・会津を五週にわたって掲載。会長の山本英市さんや顧問の堀田節夫さんから白河ゆかりの方たちが記事に登場され、この

企画はさらに別冊「司馬遼太郎の街道1」にも収められました。「クラブツーリズム」では、パンフ『歴史』表紙で大きく小峰城の姿を。そのうえ見開き両ページで白河を特集してくださいました。

私はこれらにそれぞれ関わることができたことをとても幸せに思います。



戊辰としらかわイベント案内

会津支部だより

会津支部長 眞部 正美

①八重の桜の反響

平成25年の会津は、NHK大河ドラマ「八重の桜」一色に染まり、全国から多



くのお客様が会津に訪れて頂きました。

通年は、桜の咲く時季から本格的に観光客が増えていましたが、昨年は、ドラマが放送開始になった1月からお客が増え始め、12月までお客様が絶えることなく会津に訪れて頂きました。

改めて大河ドラマの効果が絶大なるものと実感致しました。

しかしながら、これで会津の観光が復活したということにはなっておりません。まだまだ、小・中学校、高校の生徒さん達の学習旅行・修学旅行が完全に戻っておらず、依然として風評被害が続いている現状は変わりありません。平成25年に修学旅行で訪れて頂いた割合は、震災前の4割程度しか回復しておりません。

時間はかかるかもしれませんが、昨年の八重の桜の放映は、会津のみならず福島県に

とつても大きなことであつたことは間違いありません。

②飯盛山桜の植樹

飯盛山では、ここ10数年マツクイムシにより松が枯れ、ハゲ山になりつつありました。

平成25年は、NHK大河ドラマ「八重の桜」の放映により、全国から飯盛山にも注目が集まります。そのような中、山が寂しい様子では訪れる方々にとつても残念な思いが会津での思い出になることは大変忍びないことであり、また、白虎隊士が眠る飯盛山であることから、彼らが故郷会津を思いながら自刃していった願いも汲み取らなければなりません。

そういった思いから、10年後、20年後の子供達のために桜の樹木を植樹し、年々いろいろな種類の桜を植え、桜の名所飯盛山になるべく後世に遺すために、飯盛山山主の飯盛正徳様や飯盛山商店会、会津若松市、会津弔霊義会などの各種団体で昨年5月に実行委員会組織を立ち上げ、スクラムを組み、このプロジェクトを行うべく立ち上がりました。

関係各位と協議を行い、平成25年12月14日

に大雪の中、室井照平会津若松市長をはじめ10名にご参加頂き、桜の植樹式を実施することが出来ました。

白虎隊の会からは、森川敬寿様にご参列頂きました。

今は、たった1本の植樹ではありますが、今後、桜の名所になるための大いなる第一歩の大切な1本であると確信致しました。



会津飯盛山広場上方に桜の木を植樹

京都支部だより

京都支部長 中村 正

毎年、京都支部では新年会の席で、次年度の活動計画を立てています。今年度については、飯沼事務局長著『飯沼貞吉の回生』出版を記念し、秋に、京都での講演会を企画しました。講演会は飯沼事務局長と木下健先生のお二人にお願いすることとし、4月の段階より会場の確保や、内容についての準備を進めてまいりました。

当初は、飯沼事務局長と木下健先生の講演のみでしたが、せっかくの機会ということで、松葉玲子さん（榊崎頼三御子孫）・吉井克也さん（高見フサ御子孫・当会下関支部長）・渋谷巧さん（『あずさ弓の如く 飯沼貞吉物語』著者・美祢市）も交えた講演会へ発展させることにしました。

飯沼事務局長には、三年前にも京都府庁旧本館で講演会をしていただいたことがあり、その際、松葉玲子さんにも御同席をいただきました。しかし、吉井克也氏も交えた三子孫同席の場はこれまでになかったことから、大変貴重な機会になると考え、当日を楽しみにしておりました。講演会は、10月6日に実施。前日には京都支部のメンバー4名が飯沼事務局長・木下健先生をご案内する、歴史散策を行い、会津墓地のある金戒光明寺塔頭西雲院・真如堂・同志社共

同墓地にて、新島家・山本家の墓参・最後は鳥羽伏見の戦いでの東軍戦没者慰霊碑と、戦没者名簿のある南禅寺塔頭金地院を巡りました。

その後は、場所を木屋町の居酒屋に移し、松葉さん・吉井さん・渋谷さん他数名が合流し、13名で楽しく懇親会（前夜祭）を行いました。

翌日の講演会は同志社大学良心館1010号教室を会場に行いました。会場には京都支部会員で声をかけた歴史好きな方、前日の京都新聞での告知をご覧になった方など150名以上の方が参加。当日は会場内で『飯沼貞吉の回生』と『あずさ弓の如く 飯沼貞吉物語』の本の販売も実施。『飯沼貞吉の回生』は10分間の休憩中に完売となり、聴講者の関心の高さに驚かされました。

また、山口放送テレビ・京都新聞社が「長州と会津が同席する」記念すべき場として、取材に来てくれました。講演会後は場所を移し昼食会を開催。その席にも、両メディアが同席し、飯沼事務局長・松葉さん・吉井さん三者の集合写真撮影、インタビューを行い、その内容は、京都新聞社は翌日の朝刊に掲載され、山口放送テレビについては後日、山口県全域で放送されさらに吉井氏、渋谷氏の特集としてもテレビ放

送されました。

今年は、大河ドラマで会津が取り上げられたこともあり、これまで認知度の低かった「会津側からみた戊辰戦争」、「会津と長州との怨念」への注目と理解が高まっています。

末尾になりますが、今回の京都講演で、「長州藩士榊崎頼三に養育された白虎隊士飯沼貞吉」の話を世に出したいと7年前から飯沼さんと一緒にやってきた目標が達成（小説も漫画も出版できテレビでの放映、三子孫同席）出来ましたので、これを機会にこの会を卒業させていただきます。

京都支部長は、司太夫が快く引き受けて下さいました。皆様、長い間ありがとうございました。



下関支部だより

下関支部長 吉井 克也

一 はじめに

平成25年度は、前年に続いて「広げる！」をテーマに、次のような活動を行いました。



二 活動報告

① 二冊の貞吉本の拡販
5月に「あづさ弓の如く 下巻」が出版されたので、上巻に続いて下関市・美祢市の小学校と図書館に寄贈する。

② 6月29日(土) 神戸岩蔵墓清掃
今年から斎藤純一氏(相馬出身 岩蔵墓の特定をし、昭和63年に慰霊祭を行う。)の娘夫婦(藤川氏)も参加される。

(11名参加)

③ 7月6〜7日(土日) 長崎支部との交流「九州の中の会津を訪ねて」支部研修旅行を兼ねる(15名参加)

④ 8月3日(土) 神戸岩蔵墓参りと支部研修「幕末の先祖を辿る 講師 藤田顧問」

⑤ 8月22日(木) KRY山口放送取材

高見フサ口伝・貞吉回生の地

(渋谷巧氏同行) ……別頁掲載

⑥ 10月6日(日) 京都支部主催「二冊の貞吉本」出版記念講演会(同志社良心館)に支部長出席(三家対面)

⑦ 10月16日(水) KRYによる取材

岩蔵墓、長府万骨塔、集童場、貞吉初任の地(田中絹代文化館) (渋谷氏同行)

⑧ 10月19日(土) 下関市出版記念会

● ゆかりの碑建立に向けた第一回準備会

(飯沼一元ご夫妻・美祢市関係7名参加)

● 「白虎隊士飯沼貞吉の回生」「あづさ弓の如く」出版記念会並びに祝賀会の開催(約130名 講師 飯沼一元氏)

……別頁掲載

⑨ 10月20日(日) 長府万骨塔慰霊祭

飯沼氏御家族と支部会員出席。

⑩ 10月22日〜24日 会津訪問

支部長が会津訪問。佐藤一男先生にご案内を頂く。(支部研修旅行の下見)



長崎支部との交流風景



南阿蘇 佐川官兵衛討ち死の地

三 おわりに

下関支部の目標の一つは、高見フサ口伝による「長州藩士榑崎頼三と白虎隊士飯沼貞吉の怨讐を越えた人間愛の物語」を世の中に広めることでした。

4年目を迎えた下関支部の地道な取り組み(講演会、史跡ガイド、墓地整備等)等の活動と「二冊の貞吉本の出版」「マスコミの積極的な報道(別項掲載)」等が相まって、この口伝が山口県内の皆様方に広く認識されつつあることを、私達下関支部一同、本当に嬉しく思っております。御尽力を頂いた全ての皆様方に、心からお礼申し上げます。

新年度は、美祢市小杉の榑崎屋敷跡に、「貞吉ゆかりの碑(仮称)」建立に向けた活動をスタートさせる予定です。どうぞ、全国の白虎隊の会の皆様のご支援をお願い申し上げます。



神戸岩蔵の墓清掃



墓参

貞吉本出版記念下関講演会並びに祝賀会

下関支部長

吉井 克也

一 はじめに

平成24年12月1日、待ちに待った飯沼一元氏の「白虎隊士飯沼貞吉の回生」が出版されました。これと前後して、この本を原作とする「あずさ弓の如く 上下巻」(渋谷 巧氏 美祢市出身漫画家)も出版され、下関支部も全力で拡販にあたりました。そして、平成25年10月19日(土)、下関において次のとおり出版記念会を開催しました。

二 下関出版記念会(於 東京第一ホテル)

〔第一部〕飯沼一元氏講演会(130名) 演題

「白虎隊士飯沼貞吉と長州の関わり」

①はじめに

②白虎隊自刃の真相

③飯沼貞吉の長州滞在説

④会津と長州

⑤おわりに

〔第二部〕祝賀懇親会(73名)

①来賓あいさつ 中尾市長、関谷議会議長

②主賓挨拶 飯沼一元

③乾杯 波佐間教育長

④祝宴

●三者対面(飯沼 渋谷 吉井)

●アトラクション

(剣詩舞 巖流島 白虎隊)

⑤主賓謝辞 渋谷 巧

⑥主催者謝辞 吉井克也

⑦万歳三唱 本廣県国際総合センター

理事長

三 成果

●中尾市長様、関谷議会議長様、波佐間教育長様をはじめとする下関の各界を代表される方々にも多数御出席頂き、文字通り下関市を挙げた出版記念会になりました。また、美祢市からは永富教育長様、藤澤総合観光部長様方にも御出席を頂き、貞吉ゆかりの美祢市と下関市を繋ぐ第一歩にもなりました。

●講演会では、飯沼氏の綿密な研究調査

結果を基に「白虎隊自刃の真相」や「貞吉の長州滞在説」等、説得力のあるお話に、一同「会津の義」への理解を深めるとともに、改めて「会津長州の関係改善」を考えるよい機会になりました。

また、渋谷氏の「あずさ弓の如く」制作の動機や取材時のエピソード等に会場は沸きました。

●この出版記念会には、飯沼氏の奥様である楊

子様、御長男の一丈様も御出席を頂き、祝賀懇親会がより和やかなものになりました

四 おわりに

貞、よう聞けよ。……会津・長州ちゅうて日本人同士がいつまでも喧嘩をしちよる時じやないでよ。今からは、皆が心を一つにして日本を豊かで強い国にせんにやあいけんのじや。そしてその中心はお前達日本の若者じや。命を粗末にしてはいかん。ええか貞しつかり勉強せい。そして日本の役に立つ人間になれ！……

これは、高見フサ口伝の中にある長州藩士榎崎頼三が今にも自害しようとする白虎隊士飯沼貞吉を諭す場面です。

やがて貞吉は回生し、我が国の近代化に多大なる貢献をします。この口伝が伝える頼三と貞吉の「怨讐を越えた人間愛」と「未来志向」の生き方にこれからも学び続けたいと思っています。

2013年(平成25年)10月23日 水曜日 山口新聞

「白虎隊士飯沼貞吉の回生」出版記念会
著者・孫の一元さん講演



幕末の戊辰戦争で自刃した会津の白虎隊で唯一生き残り、長州藩士に養育されたという飯沼貞吉(1854~1931年)の生涯を描いた歴史書「白虎隊士飯沼貞吉の回生」の出版記念会がこのほど、赤間町の東京第一ホテル下関で開催された。著者で貞吉の孫の飯沼一元さんが、貞吉と長州の関わりについて講演した。飯沼さんは、家族や友人計48人が亡くなり、自分だけが生き残って心に深い傷を負った貞吉がどのように回生のきっかけをつかんだのかを検証。東京に護送されたから記録がない。空白の2年間があり、さまざまな証言から護送を担当した長州藩士の榎崎頼三(1845~75年)に現在の美祢市に連れ帰られて養育されたとして「一命を取り留めて貞吉は、頼三らに出会って回生の転機をつかんだ。会津、長州のしがらみを超越した生き方の例として語り継ぐ価値があると思う」と強調した。

記念会は白虎隊の会下関支部の吉井克也支部長らが昨年12月の出版を祝って開催。市民ら約130人が参加し、貞吉を描いた漫画「あずさ弓の如く」の作者で美祢市出身の苑場凌さんも来場した。

長崎支部だより

長崎支部長 工藤 新一

長崎支部にとって有意義な一年だった。支部の顧問である長崎歴史文化博物館の大堀館長が「ならぬことはならぬ」を出版され東北大震災の復興に印税を寄付された。わたしも長崎新聞社の長崎近代化遺産巡り「夢の遺産」に日下義雄のコラムを書いた。五月からは生涯学習講座で三つの公民館で5回の「長崎の中の会津」を講演した。大河ドラマ「八重の桜」の影響もあり講演依頼や街歩き型観光の「学さるく」の参加者も増え、支部の例会では必ず「八重の桜」が話題に上った。七月には、下関支部の来崎があり、大変楽しい時を過ごすことができた。歴史文化博物館では会津出身の大堀館長が自ら館内を案内された。長州からの訪問に若干の重苦しい空気はあったが（笑）、それも自然に打ち解け会い楽しいひとときを過ごすことができた。一月に設置の日下義雄の「三角溝」では、吉井下関支部長はじめ説明板を食い入るようにご覧になっていた。夜の懇親会では昨年の思い出話に花が咲いた。翌日は、福岡の柏木氏と南阿蘇の鬼官兵衛記念館を訪問。佐川官兵衛顕彰会の興梠館長、北里事務局長に官兵衛ゆか

りの地や討ち死の地を案内していただいた。下関・長崎支部合同の楽しい旅だった。一月の説明板設置、講演会の後で、日下夫人の墓所が見つかったのは嬉しいことだった。日下ゆかりの長崎での数少ない史跡であるので大切にしていきたい。去年から十二月十一日の命日の前に墓参を実施した。墓所の清掃から献花とお線香をあげてお参りをした。また、説明板のあるしとき川の三角溝の清掃



懇親会後の記念撮影

をされていた銀屋町の自治会長さんが事故でお亡くなりになったのが惜しまれる。ご冥福をみなで祈りながら今年の六月のしとき川の清掃を誓った。今年は下関支部と合同の会津行きを一番の楽しみにしている。



日下可明子夫人の墓所の清掃



南阿蘇、佐川官兵衛討ち死之地で

東京支部だより

東京支部長 渡部 麗

平成25年は、八重の桜の放送によって見事なまでの幕末会津イヤーになりました。本編でも白虎隊



自刃のシーンにおいて、落城誤認説ではなく、飯沼貞吉説が採られ、白虎隊の会にとっても大きな意義のある一年になったと思います。

東京支部の動きですが、「白虎隊士飯沼貞吉の回生」を軸にして、ふたつの出版社に売り込みをしてきました。まず角川書店の電子書籍部に本を持ち込んで、企画を作れないか提案。担当者は興味を持ってくれましたが、あと一步のところで実現には至りませんでした。理由としては、角川自体が会社再編の真っ只中で、動きが鈍かったこと、もう少し一般的に興味を持つようなコンテンツに仕立て上げる必要があったことでした。ここは引き続き、企画を練りながらまた提案していきます。

もう一社は文藝春秋。こちらも角川同様、本を持ち込んで提案。ノンフィクション作品としてなら可能性があるかと云われました。し

かしながら飯沼貞吉の証言のみだと一級資料とは認められにくく、もっと他の資料が必要だと云われました。現状だとノンフィクションとして成立させるには不足が多いとのこと。今後の方法としては、まずノンフィクション作家を選定して組み、出来る限り新資料を集めながら再提案を模索すること。しかし角川に比べると興味度は薄い感じがしました。今年八重の桜が終わり、ブーム的な潮流を作りづらいと思うので、またコツコツと出来ることをやっていこうと思います。東京支部はレキシブルという歴史好きが集まるメディアがありますので、またイベントなどを

企画して白虎隊と飯沼貞吉を発信していきます。さらに来年は大河ドラマの舞台が幕末長州なので、榊頼三関連の仕掛けも皆さんと考えていければと存じます。



平成25年度 会津まつり・会津藩公行列参加記念

本部だより

1.会 員

2014年3月末現在、累計登録会員数は174名（昨年比+14名）となった。以下、（ ）は前年比を示す。
内訳は特別会員21（+3）、一般93（-11）、賛助3（-1）、退会28（+24）、休会12（-11）、除名1(0)、物故4（0）名である。地域別では会津44、東京34、下関18、京都17、長崎10、宮城8、静岡4、福岡3、その他7名である。なお、会員名簿上、会費2年末納者は休会と表示した。また、3年以上会費未納者は退会とし、自己申請の退会者とともに名簿から削除した。この結果、名簿掲載者数は145となった。

2.活 動

主な活動実績は表に示すとおりです。青字は、本文に記事が紹介されています。

年月日	主な活動(予告を含む)
2013年 4月 2日	年次総会(インターネットで)
2013年 4月 16日	会報第3号発行
2013年 4月 24日	春の飯盛山墓前祭参加(会津支部)
2013年 6月 1日	世田谷講演『白虎隊は何故自刃したか』世田谷区桜丘
2013年 6月 10日	『あずさ弓の如く』(飯沼貞吉物語)下巻発行 苑場凌著
2013年 8月 23日	飯沼貞雄終焉の地説明版設置
2013年 9月 8日	白河講演『八重の桜と白虎隊』白河市民会館
2013年 9月 16日	仙台市輪王寺飯沼貞雄墓説明版およびあずさ弓歌碑除幕
2013年 9月 22日	大窪山案内図除幕(会津若松市善龍寺)
2013年 9月 23日	会津藩公行列に「子孫隊」として参加
2013年 9月 24日	秋の飯盛山墓前祭参加
2013年 10月 5日	京都支部『八重の桜』ツアー
2013年 10月 6日	京都講演『白虎隊子孫から見た八重の桜』同志社大学
2013年 10月 19日	下関講演会『白虎隊士飯沼貞吉と長州の関わり』山口県下関市
2013年 10月 19日	美祢市交流会、飯沼貞吉ゆかりの地碑について意見交換
2013年 10月 20日	下関市長府功山寺萬骨塔慰霊祭
2014/4/16(予定)	会報第4号発行
2014/4/ 2(予定)	年次総会(インターネットで)
2014/4/26(予定)	会津史談会総会講演、会津若松市ルネッサンス中の島

3.決算報告

白虎隊の会	貸借対照表		単位(円)		損益計算書		単位(円)
資産の部	負債の部			収入の部	支出の部		
現金及び預金	1,379,693	未払金	210,000	会 費	275,000	説明版等事業費	347,550
		負債の部合計	210,000	寄 付	129,000	会誌発行	161,830
		前期繰越残高	1,004,773	書籍代	319,480	広告費	50,000
		今期剰余金	44,920	名刺代	13,000	その他	12,180
		次期繰越残高	1,049,693				
資産の部合計	1,379,693	負債純資産合計	1,379,693			今期剰余金	164,920
会計監査	平成26年3月31日現在			合 計	736,480		736,480

4.会計監査

平成25年度の決算報告書及び預貯金記録を照合精査した結果、いずれも誤りなく執行されていることを認めましたので、ここに報告いたします。

平成26年3月31日 会計監査役 緑川 正和 印

5.2014年度の計画

新規会員獲得目標15名、総事業費は60万円を予定。

- 1.会津戸の口原に「白虎隊士戦闘の地」案内板および説明板を設置。
- 2.白虎隊士飯沼貞吉ゆかりの地記念碑の美祢市檜崎屋敷跡に建立を検討。
- 3.会津飯盛山に白虎隊桜を植樹する方法についての検討。
- 4.宮城、福岡、静岡支部の立ち上げについて検討。

白虎隊の会 設立趣意書

会津白虎隊は1868年(慶応4年)3月1日に会津藩の最年少軍隊として組織され、戊辰戦争で皇国への義を掲げて、新政府軍と戦いました。

数え年16～17歳で編成された白虎隊は総勢約300名で、うち約30名が戦死し、16名が飯盛山で自刃しました。

彼らはこの戦いで「会津の教え」を健気にも最後まで守り通しました。

「会津の教え」とは『ならぬことはならぬ』に象徴される生活の掟でした。

いつ、いかなる場面でも『義』をもって生きることが彼らの行動規範でした。

生き残った白虎隊士の多くは、国賊の汚名を着せられ、流罪となり、死んでいった戦友たちへの忸怩たる思いを抱きながら、艱難辛苦に耐えました。

一方、会津白虎隊の壮烈果敢な行動は「皇国への犠牲」としてモデル化され、戦争に利用されました。

あれから144年、会津白虎隊士の子孫は4代目から5代目を迎え、情報は散逸し、史実は風化しつつあります。

しかし、白虎隊物語は、日本人の心の中に生かし続ける必要があるのではないのでしょうか？

私たちは白虎隊の『義』を現代および将来に伝え、広めることを目的として、【白虎隊の会】を設立しました。

この会は、1.調査・研究、2.交流、3.事業企画の3つを中心に会員自らの活動と原動力として推進いたします。本会の運営は会則に示すとおりです。入会資格は問いませんので、趣旨に賛同いただける方の入会を切にお待ちいたします。

2010年4月1日

【白虎隊の会】設立発起人一同
文責 発起人代表 飯沼一元

《編集後記》

昨年は大河ドラマ「八重の桜」で、会津が話題になり、沢山の観光客が会津を訪れた。そのお陰で、飯盛山の修学旅行客は前年の2倍になったとはいえ、震災前の4割でしかない。福島原発の影響は随所に残ったままである。なぜ福島がこのような犠牲を払わなければならないのか？ 福島原発を含めた東日本大震災は国民全体の責任として解決策を見出していかねばならない。

140余年前の戊辰戦争で散った白虎隊士に学ぶものがあると信じ、白虎隊の会を立ち上げて4年。多く出会いがあり、多くの学びがある。この輪を一人でも多くの人に広げたい。“義”に生きた白虎隊士を現代の若者に伝えたい。

皆様の協力により、会誌第4号を発行することができました。継続は力なりと自分を戒めながら、5年目に向かいます。

2014年3月 飯沼記

白虎隊の会について

★入会は自由です。入会金は無料・年会費は3,000円です。

5年分一括納入へのご協力をお願いしています。

郵便振込先加入者名：白虎隊の会 口座記号番号 00100-1-616556

【白虎隊の会】事務局

〒156-0054 東京都世田谷区桜丘2-24-14 TEL:03-3429-6652 FAX:03-3429-6654

発行責任者 事務局長 飯沼一元

ホームページ：<http://byakko1868.web.fc2.com/>

検索